

「特定秘密保護法案」の衆議院本会議での可決に断固抗議する

一般社団法人 日本雑誌協会 人権・言論特別委員会
一般社団法人 日本書籍出版協会 出版の自由と責任に関する委員会

本日（11月26日）、「特定秘密保護法案」が、衆議院本会議において可決された。日本の根幹を揺るがしかねない極めて重要な法案であるにもかかわらず、十分な審議が尽くされないまま、衆議院本会議で可決されたことは、とうてい容認できない。

特に、両協会が問題としてきた「特定秘密とは何を指すのか」「その範囲はどこまでなのか」「行政の長が決めるとなれば、誰がチェックできるのか」「第三者機関は必要とされるが、その独立性は担保されるのか」など、これまでの審議でもほとんどの疑問は解消されていない。このままでは、国民が知るべき情報が隠匿されてしまう。

我々、雑誌や書籍は、政府が秘密とする情報でも、当然国民が知っておくべき情報については、すみやかに読者に伝える社会的責務を負っている。このまま法案が成立するようなことになれば、情報入手は制限され、取材・記事作成に重大な障害となることは明らかである。

「国民の知る権利」「報道・出版の自由」を根底から覆しかねない法案の衆議院本会議での可決に断固抗議する。

以上

2013年11月26日